

山元町震災復興記録誌

復興の歩み



ご挨拶



山元町長
齋藤 俊夫

復興の歩み ～笑顔がキラリと輝くまちへ～

ここ山元町は、東に牡鹿半島まで望める雄大な太平洋と、青々と茂る松林、美しい砂浜、そして、平野部から阿武隈山地のふもとまで広がる豊かな田園風景の中で、町民みんなが顔見知りという、まさに「日本の原風景」ともいえる営み、街並みがありました。

平成23年3月11日14時46分、のちに「東日本大震災」と名付けられた宮城県沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震と、その後に押し寄せた巨大津波は、わが町一帯に容赦なく襲いかかり、公共施設やライフラインのみならず、私たちのかけがえのない多くの宝を、一瞬にして奪い去ってしまいました。

誰しもが経験のない未曾有の災害に、多くの方々が戸惑い、そして、一人ひとりが、「命の尊さ」に改めて向き合うこととなりました。発災直後から、関係機関をはじめ、全国、さらには国境を越えて、実に多くの温かなご支援を頂戴いたしましたこと、この場をお借りし、心より深く感謝を申し上げます。

震災から7年が経過しましたが、町ではこの間、1日も早い復旧を果たすべく、住まいの再建などに取り組んでまいりました。その一方で、町民の安全・安心を確保すること、そして、震災の教訓を踏まえた後世に誇れるまちづくりに向け、単なる復旧に留まらない「創造的な復興」を目指し、多種多様な大規模事業に果敢に取り組んでまいりました。

こうして、本冊子発行に至ることができましたのも、町民をはじめ多くの皆様のご理解とご協力、全国の皆様のご支援とお知恵を頂戴できたからであり、本冊子は、全国の皆様と心をひとつにして、ようやくここまで復興への歩みを進めることができたという「証」となるものと存じます。

本町の復興は道半ばという部分もあります。今後とも、町民に寄り沿い、町を訪れる全ての方々に、「小さくともキラリと輝く、復興」を、実感していただけるよう、各種事業に取り組んでまいります。

図らずも、全国各地で大規模災害が起り得る状況にあります。この一冊を手にとられた皆様にとりましても、東日本大震災からの本町の復興の歩みを実感していただくとともに、震災の教訓を伝承するための一助になれば幸いに存じます。

■ 目 次

ご挨拶

被災から復旧・復興6年間の歩み 2

震災復興計画 6

1 震災直後の生活を支える 8

2 生活の再建に向けて 11

3 コンパクトシティの実現 14

4 新しいまちをつくる 18

5 災害に強いまちづくり 21

6 産業の復旧・復興 23

7 山元町で暮らす 27

被災から復旧・復興6年間の歩み

地震の概要

発生日時 平成23年3月11日（金）
14時46分頃
震源 三陸沖(牡鹿半島の東南東130km付近)
規模 マグニチュード9.0
震度 山元町震度6強

津波の概要

津波襲来 3月11日15時50分頃
最大波 12.2m（磯浜海水浴場付近）
浸水範囲 24km²（総面積の37.2%）
海岸沿い6行政区の全域および丘通り4行政区の一部が津波により水没
推定浸水域にかかる人口 8,990人（当時人口の53.8%）
推定浸水域にかかる世帯数 2,913世帯（当時世帯数の52.4%）



震度6強を示す震度計

被災状況

[人的被害]

- 死亡者数：637人（遺体未発見の死亡届17人および震災関連死20人含む）
当時人口（16,695人）の約4%
- 避難者数：5,826人
- 避難所数：19カ所

[家屋被害]

- 住宅4,440棟に被害
被害の内訳
全壊2,217棟（うち流出1,013棟）（50%）
大規模半壊534棟（12%）
半壊551棟（12.4%）
一部損壊1,138棟（25.6%）

[産業関係への被害]

- 農地面積の約59%（1,416ha）に浸水
- 水田の69%、畑地の45%が冠水
- いちご農家被災件数 125/129戸



津波被災直後の旧JR山下駅

震災からの出来事

平成23年

3月 11日 東日本大震災発災
12日 救出・救助活動、がれき撤去作業開始
災害ボランティアセンター設置
14日 電気の復旧開始
18日 上水道の復旧開始
21日 臨時災害FMラジオ放送「りんごラジオ」開局
27日 リ災証明書の交付申請受付開始
4月 1日 仮設住宅入居申込受付開始
2日 町民バス「ぐるりん号」運行再開
12日 JR常磐線（仙台－亶理間）運転再開
相馬－亶理間JR代行バス運行開始
20日 各種被災者支援制度の申請受付開始
25～26日 町内小中学校新年度開始

30日 仮設住宅入居開始
5月 31日 「思い出の品」展示・引渡開始
6月 4日 皇太子ご夫妻ご訪問
19日 第1回震災復興会議
22日 復興まちづくりに関する意向調査開始
7月 1日 避難指示解除開始
10日 第2回震災復興会議
19日 役場仮庁舎完成、役場機能移転
24日 第3回震災復興会議
8月 11日 町主催震災5ヵ月合同慰霊祭
16日 町内一次避難所閉鎖
24日 今後の住まい等に関する意向調査開始
28日 第4回震災復興会議
9月 9日 農産物直売所「夢いちごの郷」営業再開

10月 1日 山元町地域サポートセンター設置
5日 第5回震災復興会議
19日 磯浜漁港でサケの定置網漁再開
23日 消防団主催合同慰霊祭
11月 11日 災害危険区域に関する条例施行
13日 第6回震災復興会議
23日 復興イベント「心をひとつに！ふれあい産業祭」
12月 1日 フェラス山元開所
7日 第7回震災復興会議
23日 合戦原地区仮設商工施設完成
26日 「山元町震災復興計画」策定

平成24年

3月 5日 JR東日本常磐線移設ルート発表



災害ボランティア

全国から延べ39,019人（平成29年3月時点）のボランティアが訪れ、震災後の町を支えていただきました。



自衛隊による支援

救助・捜索活動、炊き出し、診療所や仮設入浴施設の開設など、多岐にわたる支援を受けました。



避難所の暮らし（山下第一小学校）

町内の避難所は平成23年8月16日に閉鎖されました。ピークは災害発生から4日目時点で避難所数19カ所、避難人数5,826人でした。



皇太子ご夫妻ご訪問

避難者一人ひとりに向かい合い、やさしくお声をかけていただきました。



りんごラジオ

震災直後から平成29年3月31日まで、生の情報を伝え続けました。



住民説明会の様子

町の復興計画に関する説明に対し、熱心に耳を傾けていました。

- 11日 東日本大震災 山元町追悼式
 - 27日 山元海岸堤防復旧工事着工
 - 6月 5日 すきですやまもと“2012”福幸花火
 - 29日 防災リサイクルセンター新規立地操業
 - 7月28~29日 八重垣神社夏祭り復活
 - 8月 28日 大規模施設園芸技術実証研究施設開所
 - 11月 19日 山下第二小学校校舎お別れ会
- 平成25年
- 1月 26日 住民組織「新山下駅周辺地区まちづくり協議会」「新坂元まちづくり協議会」発足
 - 2月 1日 中浜小学校の廃止決定
 - 2日 「宮城病院周辺地区まちづくり協議会」発足
 - 6日 復興公営住宅入居者募集受付開始

- 3月 11日 東日本大震災2周年 山元町追悼式
 - 16日 J R 常磐線（巨理－浜吉田間）運転再開
 - 31日 中浜小学校閉校
 - 4月 1日 復興公営住宅入居開始
 - 7月 31日 新山下駅周辺地区市街地整備工事着工
 - 8月 7日 新坂元駅周辺地区市街地整備工事着工
 - 30日 いちごの大型鉄骨ハウス完成
 - 31日 震災後初の総合防災訓練実施
 - 9月 20日 磯浜漁港施設災害復旧工事着工
 - 11月 15日 ハウス完成後初のいちご出荷
- 平成26年
- 3月 11日 東日本大震災3周年 山元町追悼式
 - 第1回震災伝承検討委員会

- 13日 坂元地区の県道角田山元線バイパス開通
 - 16日 坂元小学校体育館落成
 - 5月 15日 J R 常磐線移転復旧工事着工
 - 27日 第2回震災伝承検討委員会
 - 旧中浜小学校保存検討決定
 - 6月 30日 新市街地3地区の宅地分譲申込受付開始
 - 7月 5日 牛橋公園復旧工事完了
 - 10月 20日 磯浜漁港で本格的な漁再開
 - 12月 6日 常磐自動車道山元IC～浪江IC間開通
- 平成27年
- 1月 14日 東日本大震災慰霊碑建立検討委員会発足
 - 15日 坂元川・戸花川河川災害復旧工事着工
 - 2月 2日 新市街地3地区の宅地分譲引渡開始



東日本大震災山元町追悼式



復興公営住宅 入居開始

県内最速で復興公営住宅の入居を迎えました。



分譲宅地 引渡式

震災から3年、新しくなったまちで再スタートを切りました。



東日本大震災慰霊碑「大地の塔」

旧J R山下駅前跡地に建立されました。震災の記憶を深く心に刻み、犠牲者の冥福を祈ります。



旧中浜小学校

県南地域に残る唯一の震災遺構。児童・教師ら90名の命を津波から守ってくれました。

- 3月 11日 東日本大震災4周年 山元町追悼式
- 4月 1日 防災情報発信体制の一環として「キラリ☆やまとメール配信サービス」開始
- 24日 磯浜漁港海岸堤防災害復旧代打工事完了
- 7月 17日 山下第二小学校災害復旧工事中
- 8月 20日 宮城病院周辺地区市街地工事中
- 23日 まちの名称選定委員会
- 9月 18日 新山下駅周辺地区市街地の名称「つばめの杜」に決定
- 25日 山元町ふるさと寄付金(ふるさと納税)開始
- 12月 1日 新工場立地(ステンレス加工業)

平成28年

- 1月 30日 常磐自動車道山元南スマートIC工事中
- 2月 17日 新市街地の商業施設第1号オープン

- 3月 7日 花釜区交流センター落成
- 11日 東日本大震災5周年 山元町追悼式
- 26日 つばめの杜大橋開通、つばめの杜中央公園供用開始
- 7月 9日 地域交流センター新築工事中
- 24日 子育て拠点施設開所
- 8月 25日 山下第二小学校落成
- 9月 10日 秋篠宮ご夫妻ご訪問
- 10月 3日 園芸作物出荷調整貯蔵施設落成
- 23日 新市街地まちびらき
- 25日 新工場増設(ダイカスト品製造業)
- 27日 J R山下駅前に大規模商業施設オープン
- 12月 10日 J R常磐線相馬～浜吉田駅間運転再開
- 28日 町内沿岸部3ヵ所の防災公園完成

平成29年

- 1月 13日 農地整備事業「山元東部地区」戸花工区水田の引渡開始
- 3月 1日 防災行政無線戸別受信機の設定開始
- 11日 東日本大震災6周年 山元町追悼式慰霊碑除幕式
- 31日 臨時災害FMラジオ放送「りんごラジオ」閉局
- 4月 1日 常磐自動車道山元南スマートIC完成デマンド型乗合タクシー運行開始
- 5月 11日 復興創生トマト初出荷
- 7月 14日 新工場増設(鉄骨プレハブ製造業)
- 8月 1日 山元町防災拠点・坂元地域交流センターオープン
- 3日 化粧品製造工場復興操業
- 10月 1日 山元町防災拠点・山下地域交流センターオープン
- 5日 役場新庁舎の安全祈願祭挙行

復興事業の進捗

山元町の主な復興事業の進捗状況は以下のとおりです（平成29年12月末時点）。

全体の整備計画 741（区画・戸）

防災集団移転促進事業 163

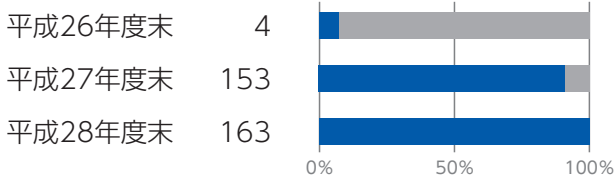
津波復興拠点整備事業 88

災害公営住宅整備事業 490

防災集団移転促進事業の進捗状況

整備地区 3地区

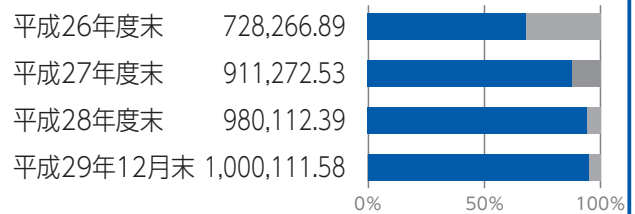
対象区画 163区画



移転元地買収の進捗状況

買収予定面積 1,051,138㎡

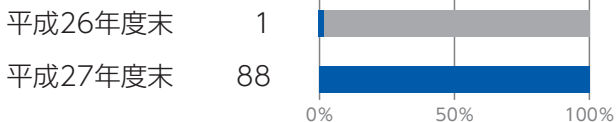
買収面積



津波復興拠点整備事業の進捗状況

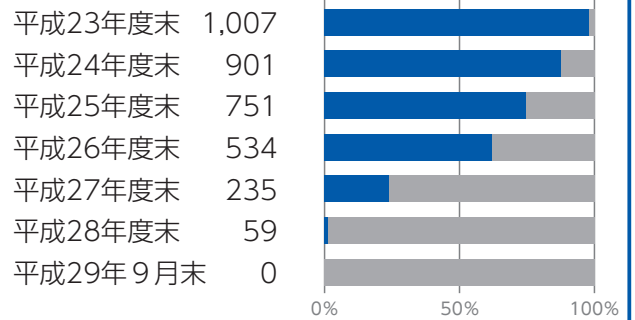
整備地区 2地区

対象区画 88区画



応急仮設住宅の入居世帯数

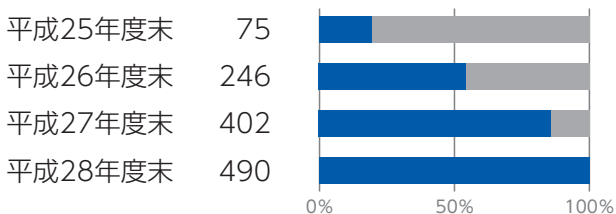
全8カ所 1,030戸



災害公営住宅整備事業の進捗状況

整備地区 3地区

対象戸数 490戸



自力再建の状況

被災世帯数(※) 2,672世帯

再建済世帯数 2,579世帯

町外・県外に再建 913

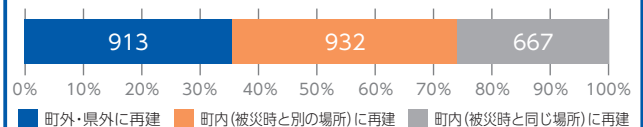
町内（被災時と別の地区）に再建 932

町内（被災時と同じ地区）に再建 667

死亡 67

※東日本大震災で被災し、国の生活再建支援金を申請した世帯数

再建済世帯の再建地別割合



震災復興計画

復興の将来像

キラリやまもと！みんなの希望と笑顔が輝くまち

基本理念	1	災害に強く、安全・安心に暮らせるまちづくり
	2	だれもが住みたくくなるようなまちづくり
	3	つながりを大切にするまちづくり

震災復興計画



震災による甚大な被害の復旧・復興には、町が総力を挙げて長期間にわたって取り組んでいかなければなりません。一方で、町が震災前から抱えていた課題「人口の減少」「少子高齢化」「にぎわいの創出」などへの対応も急務です。

そこで、『山元町震災復興計画』は、震災からの復旧・復興を推進する計画であるとともに、将来の町のあり方を見据え、町が抱える多くの課題に対応したまちづくりの基本構想『第5次山元町総合計画』としても位置付けています。

計画期間：平成23年度から平成30年度までの8年間

震災前と現在、人口・世帯数の比較

	平成23年2月末	平成29年12月末※	増 減
男（人）	8,110	6,163	△1,947
女（人）	8,585	6,252	△2,333
合 計（人）	16,695	12,415	△4,280
世帯数（世帯）	5,561	4,687	△874

※外国人住民を含む

山元町の人口は、震災などの影響により約4,000人（平成23年2月末人口の約25%）が流出し、近年は横ばいの状態が続いています。

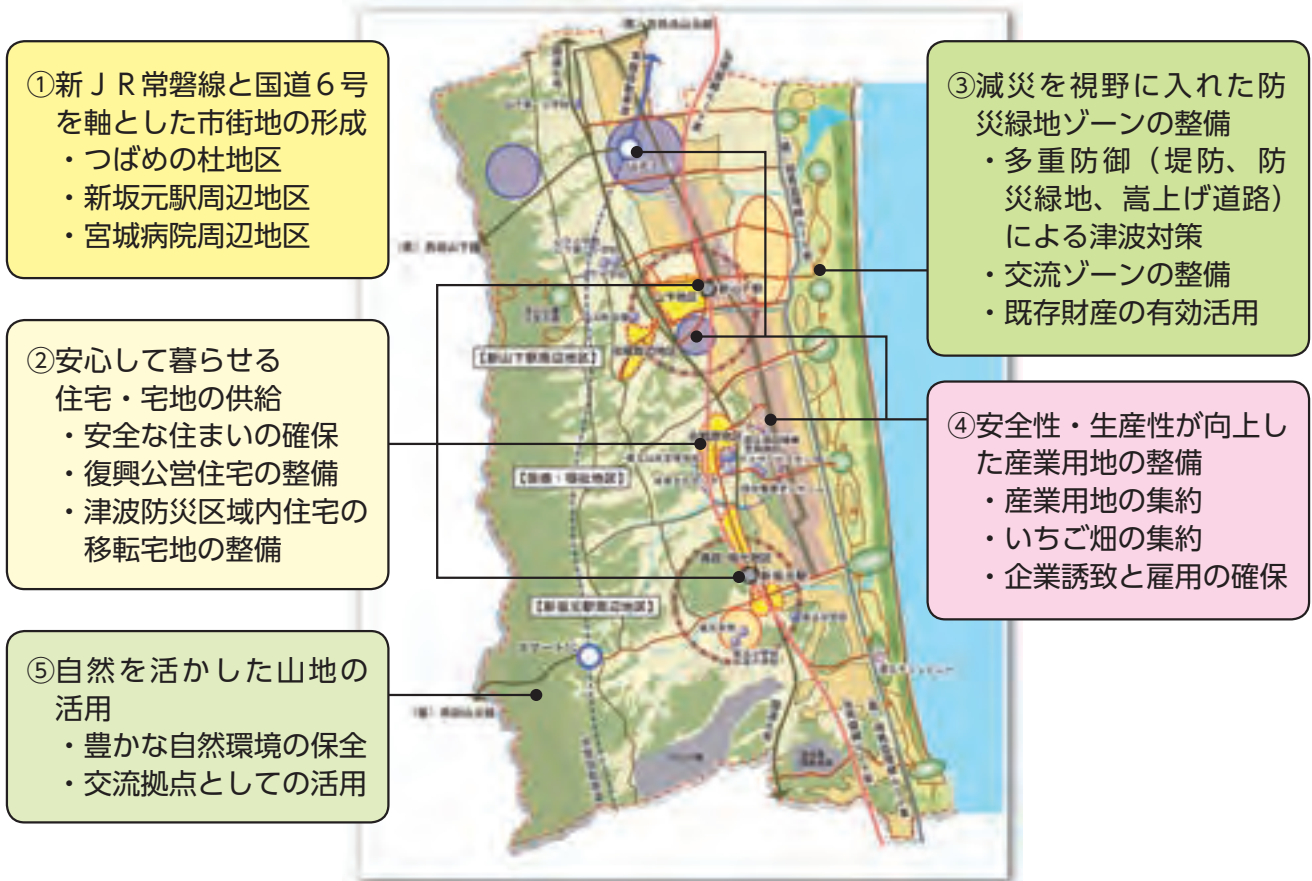
全国的に人口減少・少子高齢化が進行するなか、住みよいまちづくりや施策の展開により、人口の維持・回復を目指しています。

コンパクトなまちづくりを目指して

従来の分散されていた状態から新駅を中心とした新市街地へ集落を集約します。これにより、震災による人口減少や急増する高齢者の孤立化を抑制し、コミュニティ活動の活性化を図ります。また、生活利便施設の立地誘致と優良宅地の供給により、町外からの移住・定住を促進します。



土地利用計画



1 震災直後の生活を支える

上下水道施設の復旧

震災により被災した上下水道施設および管路の復旧を実施しました。

【上水道】

- ◇平成23年3月18日（震災発生から7日目）復旧開始
- ◇管路復旧延長66km（平成25年3月完成）（平成29年3月31日現在、全長244.8km）

【下水道】

- ◇公共下水道 山元浄化センター復旧1カ所
- ◇管路復旧延長13.5km、マンホールポンプ復旧6カ所（平成25年4月完成）

【農業集落排水】

- ◇坂元、上平地区処理施設復旧（平成25年5月完成）
- ◇磯地区処理施設復旧（平成29年3月完成）



山元浄化センター（復旧後）

災害廃棄物の処理

震災により発生した大量のがれきの撤去と処分を実施しました。

- ◇約221万tの災害廃棄物を処理（震災前の一般廃棄物年間処理量の約440倍）
- ◇平成27年3月 がいりき処理完了



戸花橋周辺



水神沼周辺



被災車両置場



処理施設

仮設住宅の整備

町内に8カ所、全部で1,030戸の応急仮設住宅を整備しました。



ナガワ仙台工場団地
130戸



浅生原東田団地
267戸

浅生原内手団地
106戸

浅生原箱根団地
63戸

高瀬西石山原団地 82戸

町民グラウンド団地
179戸



旧坂元中学校跡地団地 78戸



中山熊野堂団地 125戸



集会所の交流の様子①



集会所の交流の様子②



仮設店舗（町民グラウンド団地）

J R常磐線の補完としての直行バスの運行

町内全区間が運転休止となったJ R常磐線を補完し、通勤・通学の足を確保するため、町内と亘理町内のJ R駅を結ぶバスを運行しました。

【亘理駅直行バス】平成24年4月～平成25年3月

【浜吉田駅直行バス】平成25年3月～平成28年12月

※J R常磐線「相馬～浜吉田駅間」の運転再開により、平成28年12月9日運行終了

◇車両・路線数 1台・1路線（往復運行）

◇便数 21便／日

※いずれも平成28年度の運行内容

町民バスの運行

仮設住宅に住む被災者の日常の移動手段を確保するため、従来の運行路線から大きく規模を拡大して運行しました。また、平成23年度から平成28年度までの期間は、復興交付金を活用し無料で運行しました。

◇車両 4台（震災前2台）

◇路線 5路線（震災前6路線）

◇便数 48便／日（震災前22便）

※いずれも平成28年度の運行内容



町民バス ぐるりん号



町民バス運行路線図（平成28年度）

2 生活の再建に向けて

生活再建相談の実施・住宅再建相談会の開催協力

集団移転や生活再建が本格化するなか、円滑な住宅再建を支援するため、行政・金融機関・弁護士・ファイナンシャルプランナー・建築士などの関係機関が協力して住宅再建相談会を開催し、住宅再建方法にかかる相談対応や各種補助金の説明を実施しました。なかでも、住宅メーカー・工務店によるパネル展示や相談対応、金融機関による資金計画相談が一度に行える「住宅再建まるごと相談会」には、多くの方が来場されました。

各種住宅相談会開催実績

開催年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
開催回数	4回（6日間）	7回	7回（8日間）	4回
相談件数	21件	18件	49件	4件



相談会の様子①

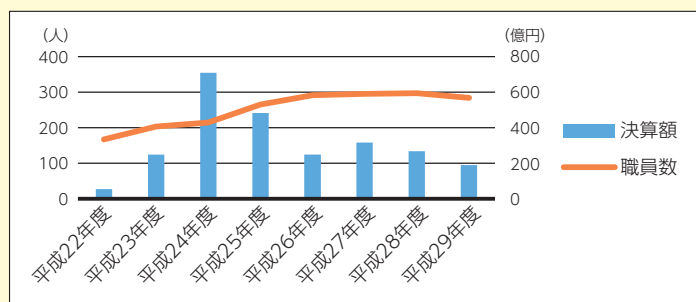


相談会の様子②

決算額と職員数の推移

震災後、大規模な復旧・復興工事の実施に伴い、町の決算額は大幅に膨れ上がりました。平成22年度決算約55億円と比べ、震災後6年間の一般会計決算額は平均で約7倍の規模になりました。

これらの復興業務に対応するため、震災から6年間で全国から延べ600人を超える派遣職員の応援を受けています。



	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
決算額 (億円)	55	250	716	486	251	320	272	190
職員数 (人)	167	203	214	265	289	291	297	284

※平成29年度は12月補正までを含む予算額

被災した宅地の買取り

津波防災区域第1種・2種区域内から区域外に移転する土地所有者が住宅用地の売却を希望する場合に、町がその土地を買取っています。さらに町の独自支援として、一定の要件を満たす住宅用地以外の土地についても買取りを行っています。

◇平成25年1月

津波防災区域第1種・2種区域内の住宅用地買取りを開始

◇平成27年7月

買取り対象を、住宅用地と一体利用されている宅地および介在農地まで拡充

◇平成28年4月

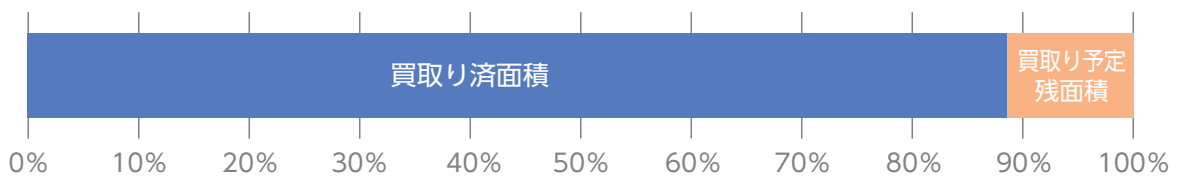
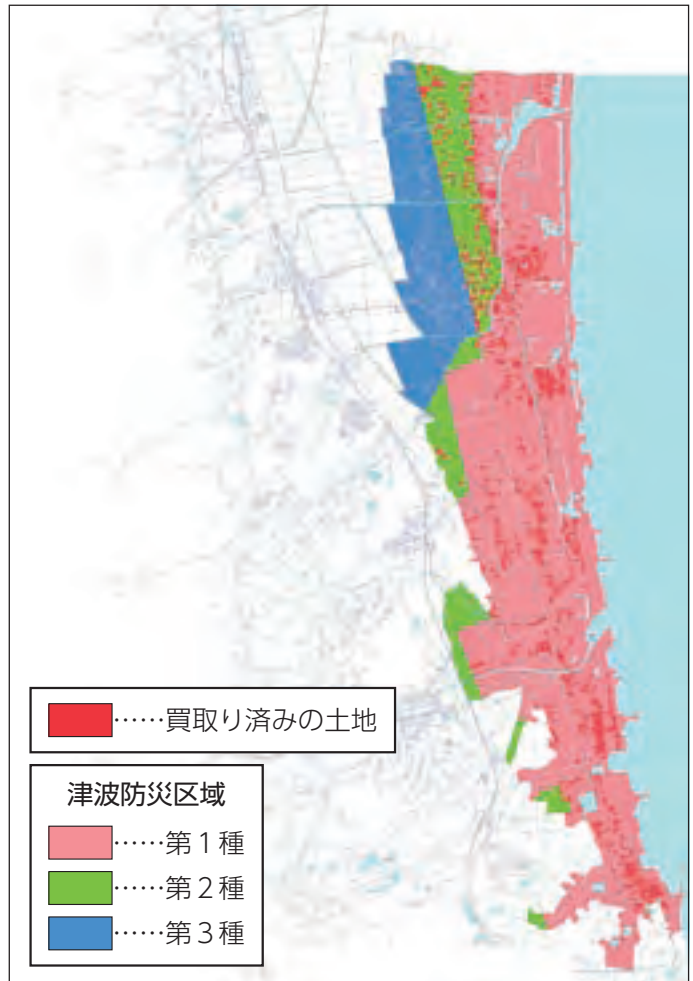
独自支援として、買取り対象を住宅用地に介在する雑種地、原野、公衆用道路および、住宅用地に隣接する山林まで拡充

【買取り状況】 ※平成29年12月末時点

筆数 2,312筆

面積 1,185,209.98㎡ (118.5ha)

買取り予定面積1,343,641.7㎡の88%



契約会会場



買取り相談の様子

固定資産税の課税免除および課税減免

【課税免除】（地方税法）

津波により甚大な被害を受けた区域として町が指定した区域内の土地および家屋について、課税免除の対象としました。

平成23年度から26年度免除地積および棟数

平成23年度	16,056,000㎡	5,007棟
平成24年度	16,896,000㎡	4,906棟
平成25年度	14,886,000㎡	4,558棟
平成26年度	10,291,000㎡	1,025棟

【課税減免】（山元町町税条例）

津波により被害を受けた土地および家屋について、町が状況を総合的に勘案し、当該土地または家屋に係る固定資産税を減免することが適当であるとして指定しました。

平成27年度から平成29年度減免地積および棟数

平成27年度	5,197,000㎡	3棟
平成28年度	6,427,000㎡	3棟
平成29年度	6,000,000㎡	3棟

※平成29年度は当初課税時点

津波被災者に向けた主な住宅再建支援

東日本大震災で被災した町民に対し、住宅の再建方法に合った町独自の支援を行っています。

- ・津波防災区域から町内（※）への移転、津波防災区域第3種区域の現地修繕などでの移転への補助
 - ・復興公営住宅の入居者へ生活支度金を補助
 - ・町内（※）で住宅を建築・購入、または被災した住宅の修繕に対する住宅再建補助
 - ・津波防災区域第2種・3種区域などでの擁壁、地盤、基礎かさ上げ新築に対する補助
- ※津波防災区域第1種・2種区域を除く

●津波防災区域（災害危険区域）

… 建築基準法第39条の規定により、条例により津波、高潮などによる危険が著しいと判断され、住居の用に供する建築物の建築の禁止やその他災害防止上必要な制限がある区域をいいます。一般的には「災害危険区域」といいますが、本町では平成28年4月1日から、東日本大震災の教訓を踏まえ、広範囲に甚大な被害をもたらす津波に対する町民の皆さんへの注意喚起と津波防災文化の確立・継承を目的に、「津波防災区域」と名称を変更しています。

また、同じタイミングで、一般的に「災害公営住宅」と呼ばれる住宅の名称を「復興公営住宅」という前向きな表現に改めています。

●防災集団移転促進事業

… 災害が発生した地域または災害危険区域のうち、移転が望ましいと考えられる区域内にある住居の集団移転を促進するため、国が事業費の一部を補助することにより、防災のための集団移転の円滑な推進を図るものをいいます。

3 コンパクトシティの実現

新市街地3地区の整備

すべての世代が便利で快適に暮らせる「コンパクトシティ」の理念のもと、3地区に新市街地を整備しました。JR新駅と国道6号を軸に、公共施設や商業・福祉施設の整備によるにぎわいのあるまちづくりが進められています。

新山下駅周辺地区（つばめの杜地区） 約37.4ha

新生やまもとの発展を牽引する「まちの顔」



①つばめの杜保育所

供用開始 平成28年8月15日

震災により被災した保育所を移転復旧し、定員150人の保育所を整備しました。



②こどもセンター

供用開始 平成28年7月25日

震災により被災した放課後児童クラブを移転復旧するとともに、これまで本町にはなかった児童館、子育て支援センターの機能を有する複合施設を整備しました。



③山下第二小学校

供用開始 平成28年8月25日

旧校舎は津波により壊滅的な被害を受けたため解体し、新たに市街地の中心部に移転しました。



④つばめの杜中央公園

供用開始 平成28年3月26日

町内外から多くの親子連れが訪れてくれるよう、魅力ある大型遊具を配置しました。



⑤商業施設

平成28年10月、スーパーマーケットおよびドラッグストア、コインランドリーがオープンしました。多くの方々が買い物に訪れ、駅前のにぎわいを創出しています。

さらに、平成29年6月にタクシー事業所が、8月には理容店、11月には飲食店がそれぞれオープンしました。



⑥山元町防災拠点・山下地域交流センター（愛称・つばめの杜ひだまりホール）



供用開始 平成29年10月1日

山元町防災拠点・山下地域交流センターは、災害時には被害の軽減と避難者の安全確保を図る“地域防災の拠点”として、また平常時は“地域の交流・活力を創造する交流拠点”として、多様な機能を併せ持つ施設です。愛称は平成28年度、山下中学校生徒に募集し、応募の中から選定されました。

宮城病院周辺地区 約9.3ha

医療・福祉の一体的サービス拠点



①高齢者向け福祉施設予定地

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で安心して生活できるよう、宮城病院を核とした医療・福祉ゾーンの形成を進めてきました。平成29年5月、特別養護老人ホームやサービス付高齢者向け賃貸住宅などの建設が決定し、平成30年4月に開所予定です。

新坂元駅周辺地区 約10.3ha

新駅と既存集落との連携



①山元町防災拠点・坂元地域交流センター（愛称・ふるさとおもだか館）



供用開始 平成29年8月1日

山元町防災拠点・山下地域交流センターと同様に、“地域防災の拠点”と“地域の交流・活力を創造する交流拠点”の機能を併せ持つ施設です。愛称は平成28年度、坂元中学校生徒に募集し、応募の中から選定されました。本センターの開所に伴い、坂元支所と坂元公民館の機能を移管し、地域における多様な役割を果たしています。

②商業施設

平成28年2月にコンビニエンスストアが、平成28年11月に郵便局などがそれぞれオープンしました。

また、平成28年12月、交流人口拡大に向け中核的な役割を担う交流拠点施設（農水産物などの直売所）を建設する方針を決定し、開業に向けた準備を進めています。



上下水道施設の整備

新市街地3地区に耐震性を有する上下水道管路を整備しました。

◇新市街地管路整備3地区

◇山下、坂元新市街地2地区に耐震性貯水槽（容量40m³各1基）を整備



耐震性貯水槽（山下）

J R常磐線の移設復旧【J R東日本】

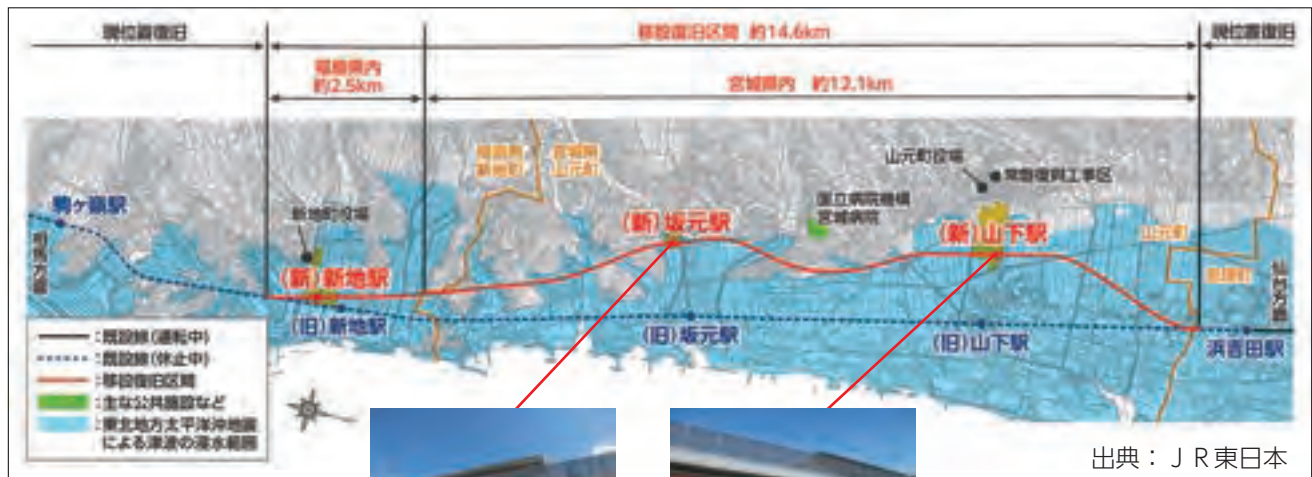
津波によって被災したJ R常磐線「駒ヶ嶺～浜吉田駅間」の鉄道施設（山下・坂元両駅舎を含む）を約1.1km内陸側に移設し、復旧しました。

◇区間延長 約14.6km（うち宮城県内約12.1km）

◇平成28年12月10日「相馬～浜吉田駅間」の運行を再開



運行再開 一番列車出発式（山下駅）



役場庁舎災害復旧（山元町役場庁舎新築復旧建設工事）

東日本大震災により被災し、解体を行った役場庁舎を復旧しています。新庁舎は今後の人口減少や少子高齢化を見据え、来庁者の館内の移動距離を少なくする工夫や、維持管理コストの低減を意識し、旧庁舎に比べコンパクトな建物としました。1階には窓口関係の諸課室や大会議室を設置、2階には議場や特別職の部屋などを配置し、ほとんどの用事を1階で済ませていただけるよう計画しています。



山元町役場新庁舎（完成イメージ）

◇構造 鉄骨造2階建

◇延床面積 約3,900㎡

◇供用開始予定 平成31年春頃



山元町役場旧庁舎

◇構造 プレハブ地上2階
(3棟)

◇延床面積 約2,700㎡

◇使用期間 平成23年7月～



山元町役場旧庁舎

◇構造 鉄筋コンクリート造
地上3階塔屋付

◇延床面積 約4,300㎡

◇使用期間

昭和48年12月～平成23年7月

4 新しいまちをつくる

分譲宅地

新市街地3地区に全251区画の宅地を整備し、平成26年6月、一斉に分譲申込受付を開始しました。

◇新山下駅周辺地区（つばめの杜地区） 201区画

平成25年6月造成工事発注
平成27年4月引渡し開始
平成27年9月全区画造成完了
平成29年7月完売

◇宮城病院周辺地区 10区画

平成27年4月造成工事発注
平成28年12月全区画造成完了
平成28年12月引渡し開始
平成29年12月完売

◇新坂元駅周辺地区 40区画

平成25年6月造成工事発注
平成27年1月引渡し開始
平成27年9月全区画造成完了
平成29年2月完売



復興公営住宅

新市街地3地区に復興公営住宅全490戸を整備しました。

◇新山下駅周辺地区（つばめの杜地区）

※平成25年4月から順次入居開始 **県内最速**

〈町営つばめの杜住宅〉

戸建て・連棟式 220棟 325戸
(平成27年度全戸完成)

中層集合住宅 1棟 21戸
(平成28年3月完成)



◇宮城病院周辺地区

※完成した住宅から順次入居

〈町営桜塚住宅〉

戸建て・連棟式 45棟 72戸
(平成28年度全戸完成)



◇新坂元駅周辺地区

※完成した住宅から順次入居

〈町営町東住宅〉

戸建て・連棟式 39棟 56戸
(平成27年度全戸完成)

〈町営道合住宅〉

中層集合住宅 1棟 16戸
(平成29年3月完成)



新山下駅周辺市街地「まち」の名称募集

新しい山元町の玄関口となる新山下駅周辺市街地の「まち」の名称を広く募集し、「まちの名称選定委員会」による審査を経て、平成27年9月「つばめの杜」に決定しました。

◇応募方法 町ホームページまたは官製はがき

◇応募総数 502通（462種類）

◇審査結果

最優秀賞（1点）	つばめの ^{もり} 杜
優 秀 賞（4点）	わかば、ひかりが ^{おか} 丘、ときわ、 ^{みやましんまち} 深山新町



選定委員会会議の様子

◇決定までの経緯

- ・公募期間 平成27年7月15日～8月14日
- ・選定委員会（審査）平成27年8月23日、（答申）平成27年9月10日
- ・庁内意思決定 平成27年9月18日
- ・町議会へ報告 平成27年9月24日



町に答申

◇まちの名称決定に伴う字名変更の議決

- ・新山下駅周辺市街地の名称が「つばめの杜」に決定したことに伴い、住所表記などを規則的に表示するため「字の区域の画定」についての議案が平成28年第1回議会定例会で承認されました。
- ・新たな町名 つばめの杜一丁目～つばめの杜五丁目

新市街地の「まちびらき」

震災復興計画の中で整備を計画した3市街地のうち2つがほぼ完成する運びとなったことを機に、これまでの全国からの支援に感謝の気持ちを表すとともに、新市街地の完成を知らせ、人口流入促進に向けた広報活動の一環として、平成28年10月23日に「新市街地まちびらき」を開催しました。

当日はオープニングセレモニー、町民によるイベントステージ、町の名産品をふるまうブースなどの催しにより、大変なにぎわいを見せました。

◇会 場 つばめの杜地区・・・つばめの杜中央公園

新坂元駅周辺地区・・・新坂元駅周辺地区町東公園

◇式典出席者数 約200人

◇来場者数 約5,000人



つばめの杜地区式典



新坂元駅周辺地区イベントステージ

復興まちづくり協議会

新市街地完成までの期間、新しいまちづくりを住民との協働で進めるため、住民同士の話し合いの場として、「復興まちづくり協議会」が設立されました。運営を町が支援しながら、住民主体によって「住民意向の取りまとめ」「勉強会」「交流イベントの実施」など、様々な活動を行いました。現在は新市街地が完成し、その役割の大部分は新しい行政区や自治会が引き継いでいます。

◇つばめの杜地区まちづくり協議会（発足当初の名称は「新山下駅周辺地区まちづくり協議会」）

平成25年1月発足、平成29年度も継続して活動

◇新坂元まちづくり協議会

平成25年1月発足、平成29年2月解散

◇宮城病院周辺地区まちづくり協議会

平成25年2月発足、平成29年度も継続して活動



ワークショップの様子

町への提言書



まちなみづくり工夫集



まちづくり協議会ニュース



コミュニティ形成支援

新市街地への集団移転によりコミュニティ形成が課題であったため、新たな自治会組織の立ち上げや、既存自治会との融合など、移転者との意見交換会を重ねながら、円滑なコミュニティ形成に取り組みました。

◇つばめの杜西区

平成25年12月 新自治会「新山下ときわ会」を設立

平成27年 3月 自治会名称を「つばめの杜ときわ会」に変更

平成28年 3月 自治会名称を「つばめの杜西区自治会」に変更

◇つばめの杜東区

平成27年10月 新自治会「つばめの杜東自治会」を設立

◇新坂元駅周辺地区

平成27年11月 移転者の意見集約を図る「町東世話人会」を設立

平成28年 3月 町区総会において、新坂元駅周辺地区と融合することを議決

◇宮城病院周辺地区（桜塚地区）

平成28年 3月 移転者の意見集約を図る「宮城病院地区世話人会」を設立

平成29年 3月 新自治会「桜塚自治会」を設立



夏まつりの様子

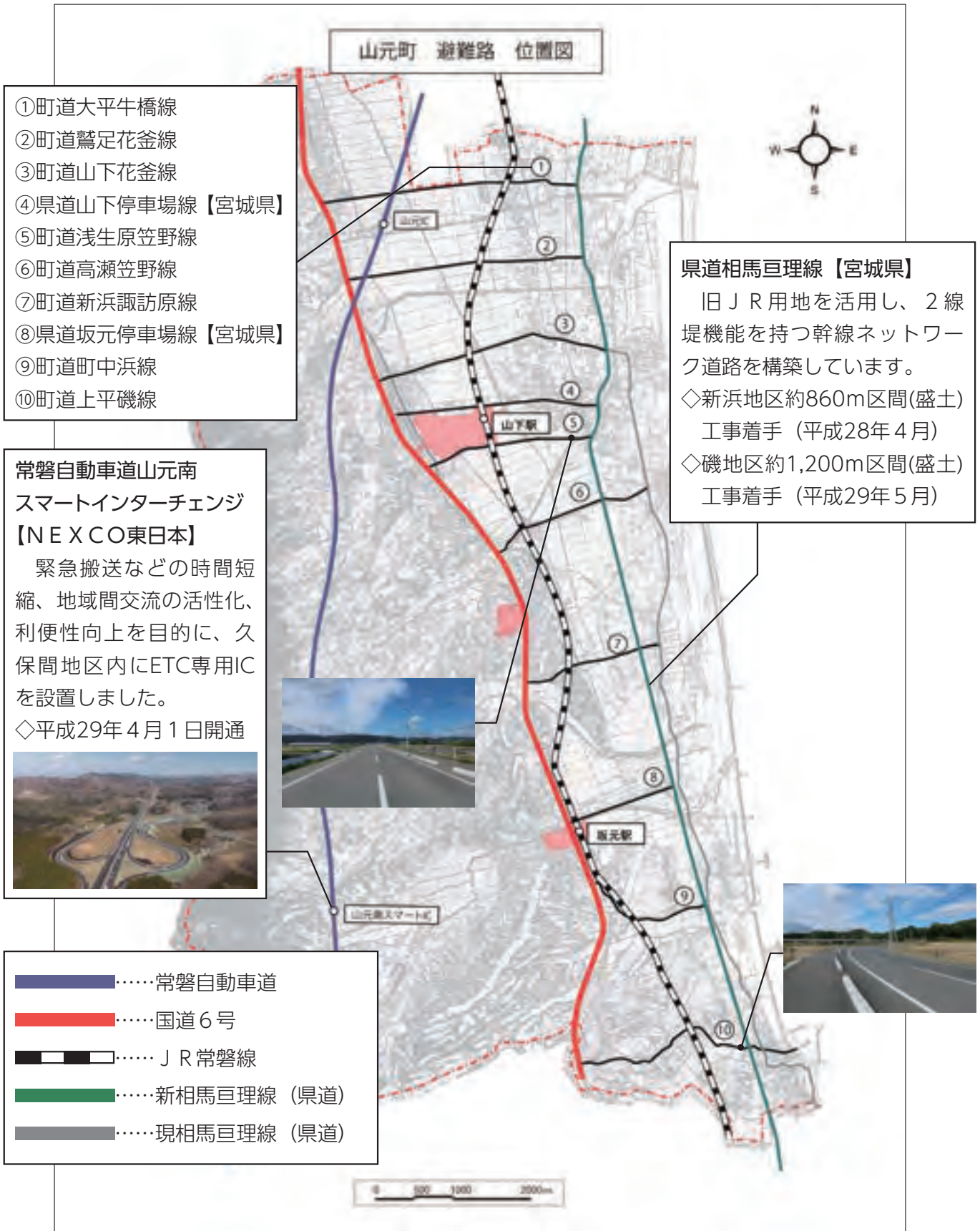


地区内の草刈り作業

5 災害に強いまちづくり

避難路などの道路整備

津波から命を守るため、沿岸部から延びる10本の避難路を整備しています。



防災公園

津波襲来時に沿岸部利用者の一時避難場所として築山（避難丘）を備えた防災公園を整備しました。
また、公園内に避難丘への誘導サインを設置しました。

【牛橋公園】面積（既設拡張分） 0.7ha 標高（T.P.） 9m

【花釜避難丘公園】面積 2ha 標高（T.P.） 9m

【笠野避難丘公園】面積 2ha 標高（T.P.） 9m



牛橋公園築山



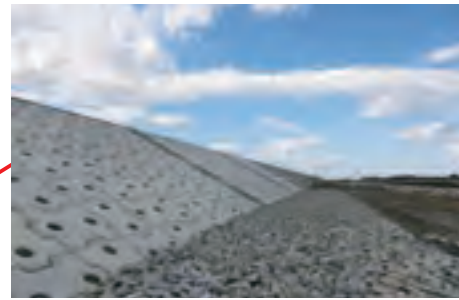
防災ベンチ



ソーラーライト

防潮堤【国土交通省、農林水産省、水産庁】

流失した防潮堤を標高（T.P.）7.2mまでかさ上げし、全面護岸で粘り強く強固な堤防を構築しました。



上下水道管路の移設・撤去

避難路などの道路整備や東部地区農地整備事業などに伴い、支障となる上下水道管きよの移設・撤去工事を実施しました。

【上水道】移設・残管処理工事22.2km（平成33年3月完成予定）

【下水道】残管処理工事8km（平成29年3月完成）

水道施設の耐震補強

水道施設の配水池について耐震補強工事を実施しました。

【上水道】配水池耐震化工事4カ所（平成27年1月完成）

6 産業の復旧・復興

農業の被災状況

震災前農業産出額の56.6%を占めた野菜のうち、主要生産品であるいちごの栽培施設の97% (125/129戸) が流出しました。さらに、沿岸部から国道までの町内農地の約59%に相当する約1,416haの農地が津波により浸水しました。水田では、全体1,430haのうち1,059ha (74.1%) が作付不可水田となり、そのうち986ha (69%) が被害水田となりました。

いちご団地

東北でも有数のいちご産地の復活に向け、農家の栽培施設の整備が完了しました。

- 【第1期工事】 経営体数 36経営体
整備数 大型ハウス56棟および付帯設備一式
完成時期 平成25年9月
- 【第2期工事】 経営体数 16経営体
整備数 大型ハウス25棟および付帯設備一式
完成時期 平成26年4月

- ◇平成26年4月、計画した4カ所のいちご団地整備が完了
- ◇平成26年11月、団地に参加する農家52戸全戸で出荷がスタート
- ◇平成29年産の生産量は震災前の水準に回復する見込み



農山漁村地域の基盤整備



被災した農地を大区画に整備しました。これにより営農効率を向上させ、また、意欲ある担い手に集積することで、本町の基幹産業である農業を永続的でより競争力のある産業にします。

【山元北部地区】 地区面積 145.3ha
※全面積引渡し済み (平成29年12月末時点)

【磯地区】 地区面積 52ha
※全面積引渡し済み (平成29年12月末時点)



被災した東部地域の土地を、用途に応じて集約することで、より有効的な利活用が図れるようにします。農用地については大区画に整備し、営農効率を向上させます。さらに、防災集団移転促進事業により買取りを行った町有地についても集約することで、防災公園や防災緑地などの公共用地を創出します。

また、震災後、地盤沈下などにより排水障害が発生していることから、排水計画を見直し、それに基づいた適切な水路や排水機場を整備することで東部地域における排水対策を講じ、水害を防止します。

【山元東部地区】 地区面積 622.2ha
※水田25.8ha、畑145.2ha引渡し済み
(平成29年12月末時点)



東部地区営農支援

被災した沿岸部農地の復旧にあわせ、営農に必要となる施設や機械を整備しました。

【新浜地区】

営農面積 120ha
栽培品目 ねぎ、さつまいも、トマトなど
経営体数 1経営体
整備内容 農業機械、出荷調製貯蔵施設、
トマトハウス
完成時期 平成29年2月



新浜地区出荷調製貯蔵施設

【磯地区】

営農面積 12ha
栽培品目 ねぎ、にんじんなど
経営体数 1経営体
整備内容 農業機械、出荷調製貯蔵施設
完成時期 平成28年3月



出荷を待つトマト

農地および農業用施設の災害復旧

被災した農地、農道および水路を復旧しました。また、排水機場などの施設も復旧することで災害を防止します。

【農地】 1,345.2ha

※全面積復旧済み（平成29年12月末時点）

【施設】 39カ所

※うち30カ所復旧済み（平成29年12月末時点）



花笠第2排水機場

漁業の被災状況

本町唯一の漁港である磯浜漁港は、防波堤・護岸・物揚場・船揚場の施設沈下や道路の陥没、防砂堤の上部工・消波工の流出など、壊滅的な被害を受けました。さらには、漁港へ繋がる道路がすべて寸断され、一時機能不全な状態となりました。

漁港施設の復旧

被災した本町唯一の漁港施設である磯浜漁港を復旧しました。

- ◇水産業共同利用施設（平成26年3月完成）
 - ◇約3,000個の消波ブロック設置、復旧（平成27年5月完了）
 - ◇共同利用漁船20艘の登録完了（平成27年度）
 - ◇漁港施設復旧（平成27年11月完了）
 - ◇漁港入口乗越え道路（平成29年3月完成）
- ※引き続き水産関係用地の再整備を実施



水産業共同利用施設の整備

東日本大震災による津波で流失した磯浜漁港の共同利用施設および共同利用漁船、漁具などの整備を実施しました。

【共同利用施設】（平成26年3月完成）

- ・ 荷捌所
- ・ 漁具倉庫

【共同利用漁船・漁具】

- ・ 漁船15艘（平成27年度完了）
- ・ 漁具（流し網、桁網など）（平成28年度完了）



ふれあい産業祭

平成23年11月に復興支援事業の一環として、全国の協力自治体の賛同を得て、第1回目のふれあい産業祭を開催しました。本町を代表するイベントとして平成29年度までに7回開催し、地域産業の振興や交流人口の拡大に寄与しています。平成29年度から会場をつばめの杜中央公園に変更し、開催しています。



【来場者数】

平成23年度(第1回)	20,000人	平成27年度(第5回)	36,000人
平成24年度(第2回)	24,000人	平成28年度(第6回)	38,000人
平成25年度(第3回)	32,000人	平成29年度(第7回)	32,000人
平成26年度(第4回)	34,000人		

企業誘致推進による雇用の創出

町独自の奨励金や優遇拡充などにより産業用地ゾーンへの企業誘致を推進し、新たな雇用の場を確保しています。複数の優良企業による新たな工場立地・操業開始や既存工場の増設・改装復旧により、地元で安心して働ける環境が整ってきました。

操業年	区分	企業名	主要製品
平成24年	新規	(株)櫻井防災リサイクルセンター	廃消火器の改修・解体処理
平成27年	新規	メルコジャパン(株)海岸工場	精密板金・レーザ加工・精密機械加工・ステンレス素材
平成28年	増設	岩機ダイカスト工業(株)小平工場	アルミ・亜鉛、金属粉末射出成形製品
平成29年	増設	(株)アークテック	ユニット式危険物庫の製造・販売
平成29年	増設	(株)コスメティック・アイーダ	化粧品の製造・販売



メルコジャパン(株)海岸工場



(株)コスメティック・アイーダ第二工場

新市街地の商業区画

新市街地に整備された商業区画で店舗が営業を開始し、住民の利便性向上に寄与しています。

操業年	店舗名	業態	地区名
平成28年	ローソン 坂元駅前店	コンビニエンスストア	新坂元駅周辺地区
平成28年	フレスコキクチ 山下駅前店	食品スーパー	新山下駅周辺地区
平成28年	薬王堂 山元SC店	ドラッグストア	
平成28年	ペリ乾ランド 山下店	コインランドリー	
平成29年	つばめタクシー	運送業	
平成29年	GARDEN	理容店	
平成29年	金ちゃんラーメン	飲食店	

7 山元町で暮らす

子育てするなら “山元町”

震災後、「子育てするなら山元町」をスローガンに、各種子育て支援・定住促進事業を推進しています。「出会い・結婚」「妊娠・出産」「子育て・教育」「定住」のライフステージにあわせた、切れ目のない支援を実施しています。

山元町定住促進事業

県内最高水準

人口の減少や流出の抑制、地域活性化の観点から住宅の新築・改築などへの補助により、定住促進を図ります。

◇平成27年度から補助内容を拡充

新築住宅取得、中古住宅取得、賃貸住宅家賃助成、住宅リフォーム支援

◇平成29年度からお試し移住・交流促進事業を実施



やまもと体験ツアー



首都圏での交流会

つばめの杜保育所

新山下駅周辺地区（つばめの杜地区）に整備された施設は、安全性と採光、通気に配慮した設計で、木造の特色を活かした木の優しさに包まれた空間となっています。園庭は、子どもたちが裸足で走り回れるように、柔らかいティフトン芝を全面に敷設しています。

また、新施設での保育開始にあわせ、新たな保育サービスを実施し、子どもたちが快適に過ごせる保育環境の整備に取り組んでいます。

◇あったかご飯事業

完全給食を実施しています。

◇すこやかお昼寝ベッド事業

保育所でお昼寝用のベッドと敷布団を準備しています。

◇あったか布団事業

一括して布団の乾燥、消毒を行っています。

◇すこやか手洗い事業

ペーパータオルを備え付けています。



こどもセンター

児童館・子育て支援センター・山下第二小学校児童クラブの機能をひとつの建物に集約し、建物の中心に多目的ホールを配置することで、それぞれが利用しやすい配置にするなど、相互の連携や管理がスムーズに行えるようにしています。

また、子育て支援センターでは、木製遊具やミニキッチンが設置されており、子育て中の親子が気軽に集い交流できる場となっています。



◇地域子育て支援拠点事業（子育てひろば）

子育て支援センターにおいて、乳幼児とその保護者の交流の場として、町内NPO法人に委託し、「子育てひろば」を週3回開催しています。また、平成29年8月の山元町防災拠点・坂元地域交流センター（ふるさとおもだか館）供用開始にあわせ、「出張子育てひろば」、「出張児童館」を開催しています。

各種子育て支援・助成事業

◇出産お祝い育児支援事業

出産のお祝いとして、紙おむつなどを購入する際、町内登録店舗で使用できる「育児支援チケット」を交付しています。



◇はじめてのベビーバス・ベビーベッドレンタル事業

出産時期に必要なベビーバス・ベビーベッドを無料で貸出しています。



◇すこやか絵本事業

1歳6～8ヵ月児と3歳児に絵本または知育ツールを贈呈しています。

◇小学校入学祝金支給事業

平成29年度から、小学校に入学する児童（第3子以降）の保護者に入学祝金を支給しています。

◇放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）

平成27年4月から、対象学年の上限を小学校3年生から6年生に拡大しています。

◇子ども医療費助成事業

平成29年10月から、対象年齢の上限を15歳から18歳（高校生）に拡大しています。

山元町震災復興記録誌 復興の歩み

平成30年(2018年)3月発行

発行 宮城県山元町震災復興企画課
〒989-2292
宮城県亘理郡山元町浅生原字作田山32番地
TEL 0223-37-0497
FAX 0223-37-4144

印刷 株式会社東北プリント

山元町震災復興記録誌

復興の歩み

 山元町